

学会受賞報告

日本補綴歯科学会第131回学術大会 課題口演賞

日本補綴歯科学会第131回学術大会 課題口演賞受賞報告

顎口腔インプラント治療部 高 嶋 真樹子

この度、日本補綴歯科学会第132回学術大会にて課題口演賞を受賞いたしましたのでご報告させていただきます。

咬合過負荷がインプラントの後期喪失やインプラント周囲炎の予測因子として報告されていますが、欠損歯のあるインプラント治療患者の咬合力を術前に正確に測定することは困難です。そこで我々は咬合力に関連する解剖学的因子とインプラント後期喪失の関連についての臨床研究をしてきました。本研究では、パノラマX線写真から測定できるゴニアル角とインプラント後期喪失の関係について調査し、ゴニアル角が小さい患者はインプラント後期喪失のリスクが高いことが明らかとなりました。この方法は、術前のインプラントの本数、直径、長さなどを検討する際に有用であると考えられます。今後は、より詳細な検討を行いインプラント治療の術前リスク評価に貢献できる研究を続けてまいります。

本研究の遂行にあたりご指導賜りました口腔生命福祉学分野の濃野教授、顎口腔インプラント治療部の荒井准教授、ご協力を賜りました諸先生方に心より感謝申し上げます。



左から2番目が筆者



横浜にて医局員と共に撮影 筆者右端

日本顎変形症学会 令和4年度学会賞受賞報告

組織再建口腔外科学分野・患者総合サポートセンター 新 美 奏 恵

この度日本顎変形症学会雑誌に投稿した論文「Orthognathic Quality of Life Questionnaire 日本語版の信頼性と妥当性の検討」が令和4年度の学会賞を受賞いたしましたので、ご報告いたします。この賞は顎変形症学会雑誌に一年間投稿された論文のなかから、2編程度選出される賞です。

現在、多くの臨床分野において生活の質(QOL)は重要な予後因子の1つであることが知られています。疾患特異的QOLは、医療のアウトカムを検証するために健康関連QOL(HRQOL)と同様に重要な指標です。Orthognathic Quality of Life(OQLQ)は、顎変形症患者の疾患特異的QOLの測定のために開発されましたが、これまで日本語版は作成されていませんでした。本研

究では逆翻訳法を用いて英語の原本から日本語版を作成しました。これを用いたアンケート結果から統計学的検討を行い、作成した日本語版OQLQの信頼性と妥当性を示すことができました。また、OQLQとHRQOLとの関連性も検討し、顎変形症患者の顎口腔機能が患者の精神的な側面に影響を及ぼしている事が示されました。今後もこの日本語版OQLQを顎変形症患者のQOL向上につなげていければと思います。

末筆ではございますが、本研究に当たりご指導いただきました小林正治教授、齋藤 功教授ならびに共同で研究していただいた先生方、研究に協力いただきました患者さんに心より御礼申し上げます。



第72回日本口腔衛生学会学術大会 論文奨励賞受賞報告

口腔生命福祉学講座口腔保健学分野 小田島あゆ子

この度、第72回日本口腔衛生学会学術大会にて2023年度論文奨励賞を受賞いたしましたので、ご報告いたします。受賞論文は「地域在住高齢者を対象とした口腔機能訓練が与える頸部可動域の改善効果」です。

高齢者における口腔機能は平衡機能と関連し、口腔機能訓練と運動器機能訓練の両介入は平衡機能を改善する効果があります。身体動揺の中でも頭部動揺は加齢による影響が出やすく、本研究では頭部を支える頸部の柔軟性に着目しました。地

域在住高齢者を対象に調査を行った結果、口腔機能訓練は頸部可動域を改善する効果が認められました。今後は口腔機能訓練が全身に与える影響、そのメカニズムの解明が課題です。

本研究の計画立案、調査および論文執筆においてご指導を賜りました葭原明弘教授ならびに新潟リハビリテーション大学の小林量作教授、新潟医療福祉大学の石上和男教授に心より感謝申し上げます。



第18回日本歯科衛生士会・ 日本歯科衛生学会学術論文優秀賞 受賞報告

口腔保健学分野 柴田 佐都子

この度、日本歯科衛生学会第18回学術大会において学術論文優秀賞を受賞いたしましたのでご報告いたします。本賞は「歯科衛生の向上と実践に根ざした学術研究において優れた成果をあげ、人々の健康と福祉に寄与する研究に対し、その功績を称え、表彰する。」という主旨の学術賞で、口腔保健に関わる専門職として栄誉ある賞を受賞できましたことを光栄に感じております。

本研究において歯科専門職は医科医療機関との連携を進め、施設従事者に対し、具体的な通所者の口腔の問題や定期的歯科受診の重要性に関する情報提供を行うことが知的障害者の口腔の健康を維持するために有効であると示唆されました。知的障害者は口腔保健ニーズが高いため、今後も研究を継続したいと考えております。

最後になりますが、本研究をご指導くださった Roxana Stegaroiu 准教授、大内章嗣教授、共同研究者である由利由依歯科衛生士に深謝いたします。



第33回 日本顎変形症学会総会・学術大会 優秀ポスター賞受賞報告

歯科矯正学分野 三村俊平

この度、第33回 日本顎変形症学会総会・学術大会において、優秀ポスター賞を受賞しましたのでご報告させていただきます。演題名は「ウェアラブルデバイスを用いた骨格性下顎前突症患者の性別による咀嚼行動の違い」です。

これまで、健常者の咀嚼機能において性差があると報告されてきましたが、骨格性下顎前突症患者における咀嚼行動の性別による違いは未だ明らかではありませんでした。そこで本研究では、bitescan[®]を用いて骨格性下顎前突症患者の咀嚼行動を男女別に比較することでその特徴について検討しました。

その結果、骨格性下顎前突症患者においても咀嚼行動の性差が存在し、男性では不十分な咀嚼がBMIに影響を与えた可能性、女性では下顎骨形態と咀嚼行動が関連している可能性が示されました。

最後となりますが、ご指導いただきました齋藤

功教授、大川加奈子先生をはじめとする歯科矯正学分野の先生方、小野高裕教授、堀一浩教授、大川純平先生、そしてご支援いただいた先生方に心より御礼申し上げます。



ポスター会場にて 齋藤功先生と 筆者右

歯科基礎医学会学術大会 モリタ優秀発表賞 受賞報告

歯周診断・再建学分野 笹川花梨

この度、第65回歯科基礎医学会学術大会において、モリタ学術発表賞を受賞いたしましたので報告させていただきます。今回受賞した演題は「分泌型白血球プロテアーゼインヒビターによる歯周組織破壊抑制作用の解析」です。本研究では、宿主由来の防御因子である分泌型白血球プロテアーゼインヒビター（SLPI）をマウス歯周炎組織中に局所投与することで、プロテアーゼ活性による歯周組織破壊を抑制することを明らかにしました。さらに、SLPIが破骨細胞の分化を抑制

し、骨芽細胞の石灰化物産生を促進することが示唆されました。これらの結果より、SLPIが歯周炎に対する新たな治療戦略に繋がるのではないかと考えています。

最後になりましたが、ご指導いただきました土門久哲先生、平山悟先生、前川知樹先生、多部田康一教授、寺尾豊教授をはじめ、本研究にご協力いただいた先生方に心から厚く御礼申し上げます。



授賞式集合写真（右から6番目）

学会受賞報告

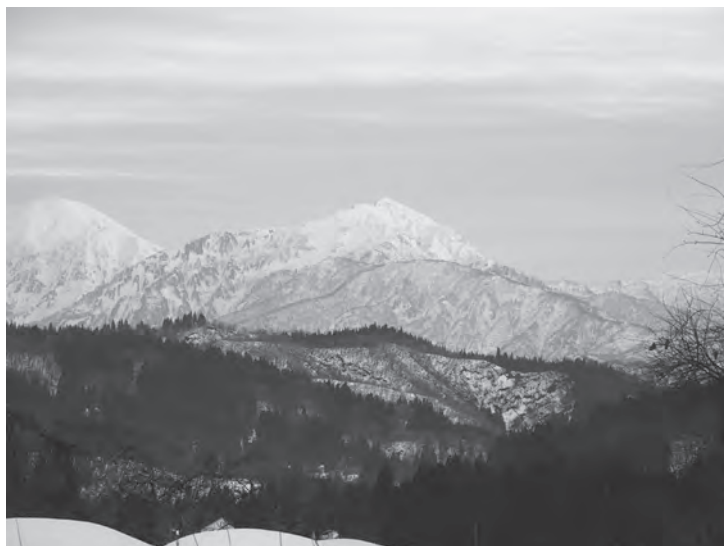
生体歯科補綴学分野 青 柳 裕 仁

この度、2023年度日本医用歯科機器学会第33回研究発表大会にてアイディア賞を受賞致しましたのでご報告いたします。日本医用歯科機器学会は歯科医療に使用される様々な機械・器具の開発および機能の改善を目的としています。

受賞演題は「SDGsの達成を目標としたアルジネート印象材の開発」で、日本製紙株式会社との産学連携による共同研究です。化学変性セルロースナノファイバーをアルジネート印象材に微量添加することにより、JIS T 6505歯科用アルギン酸塩印象材で規定される弾性ひずみおよび弾性回復量を満たし、かつ、アルジネート印象材粉末を最大約10 mass%削減できることが明らかになっ

たことから、SDGs達成を目標とした新規アルジネート印象材としての臨床応用への可能性が示唆されました。またこの研究成果を、日本製紙株式会社と本学とで特許出願（共同出願）することができました。

本研究の遂行および特許出願にあたり、ご助力頂きました日本製紙株式会社の金野晴男様、本学研究企画推進部産学連携課知的財産係の宮田敦久先生、江口稔康様、本学生体組織再生工学分野の金谷貢先生、朝日大学歯学部口腔病態医療学講座インプラント学分野の木村龍弥先生、本分野の魚島勝美教授および全ての皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



日本補綴歯科学会第132回学術大会 デンツプライシロナ賞受賞報告

日本結合組織学会第55回学術大会 Young Investigator Award受賞報告

生体歯科補綴学分野 土 橋 梓

この度、日本補綴歯科学会第132回学術大会ポスター発表にてデンツプライシロナ賞、日本結合組織学会第55回学術大会ポスター発表にてYoung Investigator Awardを受賞致しましたのでご報告申し上げます。

歯根膜は口腔機能において重要な役割を果たしていますが、その再生は未だ困難です。“培養歯根膜細胞シート”は歯根膜細胞と自らが分泌した細胞マトリックス（ECM）の複合体で、歯根膜再生に有効と考えられていますがその詳細は明らかではありませんでした。そこで私たちは、培養歯根膜細胞シートに含まれる細胞の遺伝子発現パターン、ならびにECMのタンパク組成について網羅的な解析を行い、これを歯根膜組織と比較することにより、歯根膜細胞シートの特性の解明を試みました。解析の結果、歯根膜細胞シートではECMの合成と、内包する幹細胞に活性化が生じており、これが歯周組織再生に有効である可能性

が示されました。

最後に本研究の遂行にあたり御指導賜りました本分野の魚島勝美教授、加来 賢准教授をはじめ、ご協力いただきました先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



補綴学会表彰式にて 筆者左 加来先生と

令和4年度 新潟歯学会第2回例会 新潟歯学会賞受賞報告

組織再建口腔外科学分野 浅見 栄 里

この度、令和4年度新潟歯学会第2回例会にて新潟歯学会賞を受賞しましたので、ご報告申し上げます。発表した演題名は「2-methoxy-4-vinylphenolのRAW264.7細胞における抗炎症活性にはHO-1によるiNOS転写抑制が関与する」です。

2-methoxy-4-vinylphenol (2M4VP) は酒類の原料となるブドウ等の細胞壁に結合したフェルラ酸が酵母による脱炭酸反応によって生合成されるフェノール類であり、赤ワイン等に含まれる天然化合物です。2M4VPは炎症メディエーターである一酸化窒素(NO)を抑制し、抗炎症活性を有することが報告されていますが、その作用機序は未だに明らかになっていません。一方で、抗炎症作用をもつ抗酸化酵素HO-1は転写因子NF-E2-related factor 2 (Nrf2) が核内に存在するARE (antioxidant response element) に結合する

ことで転写が促進されること、さらにHO-1が誘導型NO合成酵素(iNOS)の発現を阻害し、NOの産生を抑制することが明らかになっていました。そこで本研究では2M4VPがNrf2/ARE経路を介してHO-1の発現を増加させ、iNOS発現を阻害することでNO産生を抑制するとの仮説のもと、2M4VPの抗炎症作用の遺伝子レベルでのメカニズムを検討しました。その結果、2M4VPはNrf2/ARE経路を介して作用することから、Nrf2活性化剤、HO-1誘導剤、iNOS阻害剤として機能することが明らかになりました。

最後に、本研究の遂行にあたりご指導賜りました佐伯万騎男教授をはじめとする歯科薬理学分野の先生方、組織再建口腔外科学分野の小林正治教授、ならびにご支援いただきました全ての先生方に厚く御礼申し上げます。

第60回 日本口腔科学会 北日本地方部会 新人賞受賞報告

組織再建口腔外科学分野 笠原公輝

この度、第60回日本口腔科学会北日本地方部会において新人賞を受賞いたしましたので、ご報告いたします。受賞演題は「多分割Le Fort I 型骨切り術の術後安定性の検討」です。

本研究は多分割Le Fort I 型骨切り術の術後の顎位安定性について検討することを目的に行われました。その結果、手術後の変化量は水平方向、垂直方向ともに2 mm以内であり、正面から見た左右方向の変化量は1 mm前後と安定しているこ

とが明らかになりました。本研究からは多分割Le Fort I 型骨切り術は、術後の顎位も安定しており、複雑な顎変形を有する症例に対して有用な術式であることが示唆されました。

最後に、本発表に際してご指導いただきました当分野の小林正治教授、長谷部大地先生、歯科矯正学分野の齋藤功教授並びに本研究にご協力いただきました多くの先生方に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。



表彰式にて 筆者左

IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023— Outstanding Poster Presentation Award受賞報告

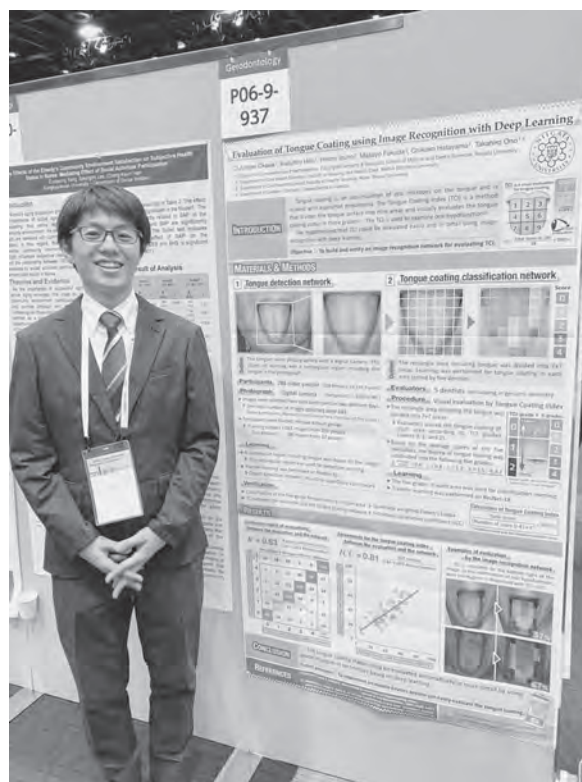
包括歯科補綴学分野 大川 純平

この度、令和5年6月に開催されましたIAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023において、Outstanding Poster Presentation Awardを受賞いたしましたので、ご報告いたします。IAGGは老年医学を中心とした国際学会であり、今回はアジア/オセアニア地域を対象として開催されました。

演題名は「Evaluation of Tongue Coating using Image Recognition with Deep Learning」です。口腔衛生状態の指標となる舌苔の付着度は、口腔機能低下症の診断基準の1つとして視覚的に評価されます。本演題では、舌を評価するAIを構築することで、高齢者における舌苔の付着度を高い精度で、より詳細に評価できることを示しました。今後は、このAI技術を応用し、舌の乾燥度など他の評価への発展と、スマートフォンへの実装を行なっていく予定です。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたりご指導いただきました堀一浩教授、ならびに研究にご協力していただきました方々に心から厚く御礼

申し上げます。



IAGG-AOR2023にて

日本老年歯科医学会第33回学術大会 優秀ポスター賞受賞報告

大学院 4 年 包括歯科補綴学分野 Ma. Therese Blanche Sta. Maria



I am pleased to announce that our poster presentation titled **“Cognitive Function-Related Changes due to Masticatory Behavior Modification: Two Randomized Controlled Studies by Age,”** received an “Excellence Award” at the joint poster competition of the 33rd Gerontological Society and the 34th Annual Meeting of the Japanese Society of Gerodontology last June 18 to 21, 2022.

This study examined the effect of improving masticatory behavior on the cognitive function of young and older adults using a chewing counter (bitescan, SHARP). Our results showed that improving the masticatory behavior can enhance cognitive function, especially the memory function of



With Shogo Yoshimura Sensei from Niigata University and Ryo Takehara Sensei and Yukina Miyazaki Sensei from Meiji University, during the cerebral blood flow measurement using the functional Near-Infrared Spectroscopy machine

older adults.

Lastly, I want to express my sincerest gratitude to my co-researchers from Niigata University and Meiji University, Professor Takahiro Ono, Professor Kensuke Yamamura, Professor Yumie Ono, Dr. Kazuhiro Hori, and Dr. Keiichiro Okamoto for their support and guidance and most especially to Dr. Yoko Hasegawa for patiently mentoring me every step of the way.



From left to right (Above) Yukina Miyazaki Sensei, Yoko Hasegawa Sensei, Takahiro Ono Sensei, Yumie Ono Sensei, Ryo Takehara Sensei, and me at the Division of Oral Physiology, Niigata University.

From left to right (Below) Rikako Sato Sensei, Kazuhiro Hori Sensei, me, Takahiro Ono Sensei, and Tasuku Yoshimoto Sensei after the awarding ceremony of the conference.